

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101935		
法人名	社会福祉法人 やまなし勤労者福祉会		
事業所名	グループホームわがや		
所在地	甲府市若松町6-35		
自己評価作成日	平成28年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月28日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①基本理念は「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」などを尊重した支援をしている。 ②地域の商店を利用したり、地域の行事や施設の行事にお誘い交流している。 ③職場会議を重ね入居者さんのモニタリングを主に業務の改善など話し合い共有し検討している。 ④法人で事例検討会や学習会を行い、事例も提供している。外部の研修にも積極的に参加している。 ⑤食事は希望を聞き、入居者さんの力を引き出しながら片付けも行き、時々外食にも出かけている。 ⑥生活の中での気付きを報告、共有、分析し危険予測の向上と介護の質を高める努力をしている。 ⑦一人ひとりの特徴を理解し、その人らしく生活していただいている。 ⑧ご家族と話し合いながら、最期までその人らしく過せる支援を行っている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府市街に位置し、遊亀公園・中央郵便局・古くからの商店などが周辺にある。通りに面した6階建の3階が事業所となっている。3地域の自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、回覧版を届ける等の交流が出来る。入職時には身体拘束の疑似体験研修を実施し、全職員が身体的・精神的苦痛を理解しケアの実践に繋げている。地域密着型サービス評価の自己評価は、各職員が評価する事で事業所の「今」の現状を確認し、今後のケアの向上を具体的に図っていく機会としている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、住み慣れた地域で安心して生活が送れる支援に努めている
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわがや**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、実理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	年度の始めに各職員が目標を立て、それらを全職員で話し合い「一人ひとりの暮らしづくり」「自分らしくいられるわがや」という全体の目標を決めた。日々の支援、月2回の職員会議、年2回の報告集会等に於いてふりかえりを行い理念の実践と共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ユニット①と同様に自治会に加入し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板を届けたり、施設独自の新聞を配布し、また地域の商店を日常利用し交流している。	3つの自治会に参加し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板を届けたり、施設独自の新聞を配布し、また地域の商店を日常利用し交流している。	地域の文化祭には、利用者の貼り絵を出品した。地域の味噌屋・八百屋・果物・薬局に職員と一緒に買いに行き人と会話をするなど日常的な交流が出来る。事業所の行事時には、参加者と利用者が親しく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験も行っている。	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し入居者さんへのサービス提供の状況を、「わがやだより」や写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し入居者さんへのサービス提供の状況を、「わがやだより」や写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。	会議は土曜日の午後開催とし家族は、半数近くが出席している。防災訓練に参加した家族から「非常階段に手すりを付けて欲しい」と意見があり実際に取り付けた。会議のメンバーに知見を有する者として他のグループホーム職員の参加もある	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ユニット①と同様に運営会議やグループワークに参加している。	運営推進会議に包括支援センターより参加して頂いている。市役所には議事録を送付し報告をしている。包括の職員の方には行政や介護保険について学ぶ機会にもなっている。市の主催のグループワークに参加し意見交換を行った。	市主催の連絡会議に出席したり、介護認定更新手続き時に利用者の入居についての話をしている。サービス利用について依頼されたり、他の事業所が運営推進会議の様子を見学したいとの事で市から依頼を受けるなど日頃から協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉1つも拘束であることを、職員全員が理解し拘束を行わない介護を実践している。入職時には教育の一環として身体拘束の疑似体験研修を行っている。施設が3階にありエレベーター使用しているが移動したいときは一緒に行動している。	言葉1つも拘束であることを、職員全員が理解し拘束を行わない介護を実践している。入職時には教育の一環として身体拘束の疑似体験研修を行っている。施設が3階にありエレベーター使用しているが移動したいときは一緒に行動している。	職員は、年度初めに身体拘束についての研修をしたり、入職時には車いす拘束・ペスト状の食事・オムツ・スピーチロック等の身体拘束の疑似体験を行っている。スピーチロックについては、職員間でお互いに注意をし合える環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	入居者さんの身体的、精神的変化は記録に残し、ヒヤリハットやインシデント報告から分析し、分析・再発防止、予測も踏まえ話し合いをしている。介護安全委員会を通じ新聞も発行し掲示したり、職員に発信し注意もしている。	入居者さんの身体的、精神的変化は記録に残し、ヒヤリハットやインシデント報告から分析し、分析・再発防止、予測も踏まえ話し合いをしている。介護安全委員会を通じ新聞も発行し掲示したり、職員に発信し注意もしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用する方もおり、制度の学習会を行っている。	後見人制度を利用する方もおり、制度の学習会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ユニット①と全く一緒の方法で行っている。契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。途中疑問があれば連絡を頂き説明し文章等で連絡、説明している。	契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。疑問に思うことがあれば、その都度説明し、加算等で変更がある時は運営推進会議や文章にし説明をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわがや**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方より意見や要望を気軽に話す機会を設けたり、入居者さんは毎日朝会で個人の意見や要望を言う機会を設けたり、日々かかわる中で、気軽に話せるような雰囲気を作り、支援に繋げている。	面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方より意見や要望を気軽に話す機会を設けたり、入居者さんは毎日朝会で個人の意見や要望を言う機会を設けたり、日々かかわる中で、気軽に話せるような雰囲気を作り、支援に繋げている。	利用者の定期受診を家族対応とし家族が事業所に来る機会を意識して作っている。管理者は入り口の木製ベンチでお茶飲みながら家族の意見を聞いている。利用者の毎朝のお茶会では、食事の味付けや、温度調整などの意見があり支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も主任もユニット①と同じなので、考え方は一緒の方法で行っている。	毎月必要時にスタッフ会議を設け月2回の職場会議を設け意見交換を行っているが、日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援などに生かしている。管理者は職員に相談することで、意見を引き出す機会も作っている。	年2回管理者が、職員と個別面接を行い意見を聞いている。行事は職員が計画を立てている。食材の購入も担当職員が行っている。備品の購入についても希望が出せる等日頃から気軽に意見や要望が言える環境である。掃除機購入の意見があり購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就業環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就業環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が主体となり事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。	研修委員会が主体となり事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、研修に参加している。また、甲府市の介護サービス事業者連絡協議会では意見交換し困っている所の相談もお互いに話し、取り組みを確認したこともある。	GH協会に加入し、研修に参加している。また、甲府市の介護サービス事業者連絡協議会では意見交換し困っている所の相談もお互いに話し、取り組みを確認したこともある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように、努力している。ご本人の不安軽減のためにお試し期間も行い、ご希望に添えるように計らった。	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように、努力している。ご本人の不安軽減のためにお試し期間も行い、ご希望に添えるように計らった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ユニット①と同様の方法で行っている。ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。	ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから面談、見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。	申し込みから面談、見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居に至るに当たり、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えて頂き、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。	入居に至るに当たり、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えて頂き、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話する。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげている。外泊、外出時は特に同様の支援が出来るよう家族の方の理解も得ながら関係性を作っている。	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話する。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげている。外泊、外出時は特に同様の支援が出来るよう家族の方の理解も得ながら関係性を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊をしたり、お墓参りや昔からの馴染みの場所に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、面会へ働きかけている。	外泊をしたり、お墓参りや昔からの馴染みの場所に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、面会へ働きかけている。	年賀はがきや暑中見舞いを家族や知人に書いて出している。携帯電話を持っている利用者もいる。利用者が以前勤務していた郵便局へはがきを買いに行ったり、馴染みの床屋さんに家族対応で行く等人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん全員で話し合う時間を毎日作っている。入居者さんの生活暦や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。	入居者さん全員で話し合う時間を毎日作っている。生活暦や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り支援をさせて頂いた方は、度々来て下さりお話をする機会もあり、必要があれば相談ことも伺っている。契約が終了しても遊びに来られたり、体調のこと、支援サービス等の相談にのっている。	入居され、わがやの生活をする事により、生活感覚が戻り、自宅に退所されるケースもあった。デイに通い、わがやに立ち寄るなど利用者さん、ご家族との関係を継続し支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の朝会で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や言動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。	毎日の朝会で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や言動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。	毎日の朝会や日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。家族から情報を得て思いを聞き、アプローチの一つひとつ丁寧に行っている。困難な利用者には、24時間シートからアセスメントを行い意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集させていただいたが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。	入居前に情報収集させていただいたが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録や、健康管理表は毎日必ず職員は、把握できるようにと目を通して。毎日朝夕で申し送りを行い、確認もしている。	日常生活の記録や、健康管理表は毎日必ず職員は、把握できるようにと目を通して。毎日朝夕で申し送りを行い、確認もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面接記録や、日常生活、記録の中からケアプランを作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気持ちも取り入れ優先順位を検討し計画を付けている。	面接記録や、日常生活、記録の中からケアプランを作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気持ちも取り入れ優先順位を検討し計画を付けている。	利用者担当職員が毎月1回モニタリングして報告をしている。報告を受けて計画担当者が6か月に1回計画書を見直している。状態に変化が生じた場合には、再アセスメントをし職員と意見交換して常に利用者の状態にあった計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わるポイントを職員間で確認したりミニカンファをしたり、朝夕の申し送り共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。	日々の記録の中で変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わるポイントを職員間で確認したりミニカンファをしたり、朝夕の申し送り共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわがや**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。靴1足でもフィッティングし、足に合ったものを購入できるようにサービスを利用している。	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団、消防署の協力を得ての防災訓練、また地域の防災訓練、河川清掃に参加している。地域の文化祭にもできる役割の中で、作品を作り上げ出品し、参加し、地域と交流を図った。また夏祭りでは地域の物品をお借りして地域の方も招き夏祭りを行っている。	地域の消防団、消防署の協力を得ての防災訓練、また地域の防災訓練、河川清掃に参加している。地域の文化祭にもできる役割の中で、作品を作り上げ出品し、参加し、地域と交流を図った。また夏祭りでは地域の物品をお借りして地域の方も招き夏祭りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を基本に受診している。受診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうこともある。	今までのかかりつけ医を基本に受診している。受診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうこともある。緊急時には電話で相談している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。家族との絆を考え、家族の受診対応となっている。必要に応じて職員も同行している。受診時は、情報提供表でお互いに情報を共有している。かかりつけ医の往診が月2回・歯科医の往診も月1回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。内服薬も看護師の指導の下で管理している。	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。内服薬も看護師の指導の下で管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病状確認と今後の治療内容は、ご家族と連絡をとりあい、確認しながら退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。	病状確認と今後の治療内容は、ご家族と連絡をとりあい、確認しながら退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りの指針説明や介護計画書作成時、更新時に入居者さんやご家族の気持ちや意思を確認して、状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めているが、入居の時点で看取りを希望している方もいる。かかりつけ医の往診も欠かせないことなのでかかりつけ医との連携も大切にしている。	入居時の看取りの指針説明や介護計画書作成時、更新時に入居者さんやご家族の気持ちや意思を確認して、状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めているが、入居の時点で看取りを希望している方もいる。かかりつけ医の往診も欠かせないことなのでかかりつけ医との連携も大切にしている。	重度化した場合の看取りについては、入居時に説明し本人、家族の意向を踏まえて話し合い確認している。これ迄に看取りの経験がある。看取り期には、カンファレンスを繰り返し行い、看取りの段階毎に対応をして行くようにチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	重度の入居者さんの避難では、シーツで包む等試している。地域の消防団長さんや自治会長さん、民生委員さんはいずれも協力体制が得られ連絡網訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方に防災訓練の講評をさせていただいている。	重度の入居者さんの避難では、シーツで包む等試している。地域の消防団長さんや自治会長さん、民生委員さんはいずれも協力体制が得られ連絡網訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方に防災訓練の講評をさせていただいている。	年2回消防署の指導で併設の事業所と夜間も想定した訓練を実施している。利用者一人ひとりの状態を踏まえて避難ができる様に全職員が参加している。訓練時は、防火扉の開閉や消火器の操作訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として入居者さん人格のや気持ちに配慮し尊重した対応を心掛けている。恥を欠かせないことや、耳元で排泄や入浴誘導をしており、出来ない事を他の入居者さんに知られないように、声掛けには工夫している。	人生の大先輩として入居者さん人格のや気持ちに配慮し尊重した対応を心掛けている。恥を欠かせないことや、耳元で排泄や入浴誘導をしており、出来ない事を他の入居者さんに知られないように、声掛けには工夫している。	人前であからさまに介護したり、恥ずかしい思いをしないように配慮した支援をしている。トイレ誘導の声かけや、時には氏名も隠語を使うようにしている。職員は、個人情報について学んでおり、プライバシーの確保についても十分理解して対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。生活の中で「外に行きたい」「お寿司が食べたい」「海苔無いから買に行きたい」など、思いに添えるように支援している。	毎朝、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。生活の中で「外に行きたい」「相撲・野球が見たい」「歌が歌いたい」「体操したい」「横になりたい」など、思いに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、体調や天気、思いや希望によって支援している。自分で判断することが難しい方にはその方の様子をアセスメントし適した支援を行えるように心掛けている。	決まりはなく毎朝、体調や天気、思いや希望によって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と一緒に美容院に行ったり、長髪の方は髪結い支援や、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけご自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧等支援している。	ご家族と一緒に美容院に行ったり、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけご自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共同決定にて献立を決めている。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたいっている。	共同決定にて献立を決めている。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたいっている。	献立は、昼は肉、夜は魚をメインに、1汁3菜としている。外食時に、ショッピングセンターで各自が好きな店で好きな物を食べる時もある。また、利用者は、盛り付け、片付けをしたり、男性の利用者がお茶を入れるなどしてそれぞれの力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。必要に応じてはトロミを利用することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さんの毎排泄パターン表をつけ誘導し、時間や排泄内容を確認する中で分析し、トイレで排泄出来るような支援につなげパット利用を減らすようにしている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。	入居者さんの毎排泄パターン表をつけ誘導し、時間や排泄内容を確認する中で分析し、トイレで排泄出来るような支援につなげパット利用を減らすようにしている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。	排泄チェック表で利用者それぞれの排泄時間を把握して、トイレでの排泄支援をしている。昼夜オムツ使用の利用者はいない。尿意の無い利用者にも行動や様子のサインを理解して、トイレで排泄出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かし、自然排便ができるように支援している。	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かし、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番は決まっていないが、希望や体調を確認し、入浴していただいている。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会とも鳴り、楽しまれている。	順番は決まっていないが、希望や体調を確認し、入浴していただいている。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会とも鳴り、楽しまれている。	毎日午後からの入浴となっているので、利用者は好きな時間に好きな温度で楽しんでいる。入浴拒否の利用者は、時間や職員を変えるなどの工夫をしている。車いすの利用者は、職員2人で対応し安心して入浴できる様に努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(② 9名 東)	ユニット名(① 6名 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの生活習慣や体調に合わせた支援をしている。休まれたり、リネン、寝具の洗濯や布団干しを行いよく休んで頂けるように支援している。	入居者さんの生活習慣や体調に合わせた支援をしている。と休まれたり、リネン、寝具の洗濯や布団干しを行いよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み内容を理解するようにしている。薬セットから、日にちセットなど必ず2人体制で、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、食欲や様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み内容を理解するようにしている。薬セットから、日にちセットなど必ず2人体制で、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、食欲や様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの出来る事、その日の体調にあわせ、外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。	入居者さんの出来る事、その日の体調にあわせ、外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎朝入居者さんが意見や要望を伝える機会を作り要望を伺い、優先的に行う。日常的な買い物散歩、回覧版まわし、わかまつ新聞配りは行っている。わがやの外出企画は楽しみの一つとなっているので、ご家族と一緒にに行けるように、楽しめるようにと支援している。	毎朝入居者さんが意見や要望を伝える機会を作り要望を伺い、優先的に行う。日常的な買い物散歩、回覧版まわし、わかまつ新聞配りは行っている。わがやの外出企画は楽しみの一つとなっているので、ご家族と一緒にに行けるように、楽しめるようにと支援している。	朝会で、利用者にその日の希望を聞いて、近くの動物園に行くなどしている。朝会の後に前庭で体操をしたり、洗濯物を乾燥機に取りに行くなど日常的に戸外に出る機会を作っている。家族と音楽コンサートに出かけたり、初詣・花見・ひまわり畑・紅葉狩り等季節感のある外出もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持つ方は入居者さんの買い物支援として繋げている。	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持つ方は入居者さんの買い物支援として繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。ご家族様からの手紙も本人様と一緒に読まれている。	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は仕切り戸はあるが、自由に行き来でき、窓から光が入るようにしている。換気や室温、乾燥には十分注意をは払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	共有の空間は仕切り戸はあるが、自由に行き来でき、窓から光が入るようにしている。換気や室温、乾燥には十分注意をは払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	事業所3階の入り口には、木製の長ベンチが置いてあり、利用者や家族が訪問した時のコミュニケーションの場となっている。フロアには、空間洗浄機(除菌)が置いてある。また、AEDやわがや防災関連セットが用意されて非常時に備えている。文化祭に出品した貼り絵が飾ってあり家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席はあるが、ソファーに座ったり、ユニットを自由に行き来させて、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。居室が離れたところにある方は途中で一休み出来るようにイスを置いてある。	決まった席はあるが、ソファーに座ったり、ユニットを自由に行き来させて、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	入居時に使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	居室には、カーテン、押入れ、エアコンが備え付けてある。利用者が自由にテレビや家族写真、使い慣れた机や椅子等を持ち込み、その人好みの居室となっている。動物好きの利用者の部屋は、沢山の縫いぐるみに囲まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下など手すりがつけてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るだけ出来るようになっており、所々に椅子も置き、安全に生活動作にあわせて、すべり止めや、予防の為にセンサーマットも利用している。	トイレや浴室、廊下など手すりがつけてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るだけ出来るようになっており、所々に椅子も置き、安全に生活動作にあわせて、すべり止めや、予防の為にセンサーマットも利用している。		